

山元町地域活動支援センター指定事業 ひろばポラリス

今年度から「ひろばポラリス」は、山元町の障害者地域活動支援センターの指定を受け、自宅から一歩出て、活動してみたい方を応援するオフィシャルな場所になり、障害のある人をはじめ地域の誰もが、気軽に立ち寄れる居場所づくりに取り組み始めた。



アートと本のあるフリースペース
 安心する空間で、のびのびアート活動ができます。また、いろんなジャンルの本を自由に読むことができます。

ピアサポーターとおしゃべり
 自宅での心とからだの充電期間を経て地域に一歩ふみだした仲間と、いっしょにお話もできます。




気軽に
個別相談
 対象者
 ● 自宅で充電期間中の方
 ● ご家族の方
 ● 悩みや困りごとを相談したい方

事業開始 2023（令和5）年4月1日
利用者定員 10名
従業員数 管理者1名
 指導員2名（うち1名は兼務）

活動内容 創作的活動
 塗り絵、描画、折り紙、刺繍、園芸、読書、勉強、
 体操、散歩、休養、パズル、メダカの飼育、持
 など
 生産活動
 農作業（さつまいもの選別、いちごの箱折り等の



社会との交流活動の促進
 かるた、じゃんけん、すごろく、
 <各種ワークショップへの参加>



障害者をつくる地域づくりのプラットフォーム「ひろばポラリス」

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

アート×学び×居場所（ひろば）づくりを障害者と協同実践することができた。この活動のプロセスを経て、地域住民が世代や分野を超えて繋がり、支え手と受け手という関係を超えながら、障害者と地域のエンパワメントと、インクルーシブな地域づくりを目指す「ひろば」づくりに取り組むことができた。

（成果）

1.当事者のエンパワメント

- アート×学び×居場所（ひろば）づくりに取り組みながら、自己肯定感と自己有用感を育むことができた。
- 「他者を認める・受け入れる・否定しない」という価値観について共感し合うことができた。
- 当事者が主体的にひろばポラリスでの活動について紹介する「かわら版」づくりに取り組むことができた。
- これまで福祉サービスを利用する機会がなかった人が定期的に「ひろば」を利用するきっかけとなった。

2.地域と新たなつながりを作る場となる

- オープンな場づくり&情報発信でより障害や特性についての理解が深まった。
- 障害の有無に関わらず気軽に来てもらうことにつながった。
- 誰にとってもなじみ深い題材を取り入れ、地域の方も「一緒に学び合いたい」と参加され、共に学び合うことができた。
- フラットな立場・環境の中で、講師・参加者と現在の暮らしや心身の不安などについて、気軽に対話ができる場となった。
- 保護者に「親なき後」を考え合う機会を設け、自分たちの家族の現状と未来を考えたり講師と個別に相談し学び合った。

3.地域の協力者につながる

- 地元の若手アーティスト：アートワークショップ講師
- 町内の文化芸術団体（山元民話の会）：語り部ボランティア
- 地域のそば打ち団体
- 町内企業に勤める外国人
- 地域の民生児童委員

「これからの展望」

宮城県山元町には、まだまだ障害者をはじめとする心身のケアを必要とする人たちの資源（建物）や支援スタッフが極めて少ない。震災から13年が経とうとしているが、その年月で課題も複雑深刻化している。

今後の課題として喫緊であるのは、親なき後のサポートであり、居場所づくりと併行して「住む支援」も進めていきたい。地域の中で支援が必要な人たちがフォーマル、インフォーマルな資源と人を活用できる仕組みを作り、過疎の町であっても安心して暮らせる地域であり続けられるように、これからも様々な人や機関を巻き込んで、一歩ずつ取り組んでいきたい。

（アート展示コーナー）



（スローバ文庫コーナー）



（読書会）



（アートワークショップ）



（サロン）

